

# 療護施設職員リレーエッセイ

みんなに伝えたい

## 「笑顔に会いたい」



北川 友美

滋賀県・るりこ園主任寮母

「利用者本位」といわれるようになってきて、「どこまでできるのだろうか?」「大変だな」と不安になり、色々と考え込んでしまいます。そんな時、療護施設で働き始めた頃のことをよく思い出します。

当時、毎日、私の後ろをニコニコしてついて回るMさんがいました。特に声を掛けなくてもニコニコされていました。話しかけるとすごくうれしそうな笑顔になられます。帰り際には「明日も来る?」と聞かれ、「来ます」と答えると、「待ってるわ!」と嬉しそうに言われます。また、職員が忙しそうにしていると、「手伝うわ!」とすごく楽しそうに手伝おうとされます。その頃の私は、毎日の業務をこなすことや職員間の人間関係に悩み、このようなMさんの行動について考えたり、笑顔に応えたりする余裕がありませんでした。それどころか「仕事が進まない」とか「毎日、何が楽しくて笑っているんだろう?」と思っていました。

そんなある日、Mさんの笑顔に癒されている自分がいることに気がつきました。つらい時に元気付けてくれる、また、やさしい気持ちにしてくれるそんな笑顔でした。その頃の私は、笑顔なんて忘れていたような気がします。一生懸命になっていたつもりでも、大切なことを見逃していたのではないかと思いました。利用者さんのために何ができるのか?と難しく考えすぎていた気がします。私がMさんの笑顔に支えられていたように、私にもできることがあるような気がしました。

「これからはいつも笑顔でいよう、利用者さんの

笑顔がたくさん見られるような援助がしたい」と思いました。「楽しみ」や「喜び」が多い生活を送ってもらうにはどうしたらいいのか?と考えました。一人ひとりの利用者さんとたくさん話をし、たくさんかかわりをもつように努め、利用者さんの思いに少しずつ触れられるようになった時、それほど特別なことを望んでおられないということに気がつきました。Mさんにとっての楽しみが、人とのかかわることやみんなが楽しそうにしているのを見ていることだったように、些細なことが楽しみになっている方も多いということです。

また、利用者さんの支援計画を考える時、できないことや問題点について考えていました。しかし、「楽しみ」や「喜び」について考える方が私自身も楽しく、利用者さんにとっても意味のあることだと思いました。そんな生活の中で、今まで問題だったことが解決されることも多いのです。自分の思いを上手く伝えることができない方も多いです。問題行動の裏側にある思い、何を求めておられるのかということを考えていくことが大切だと思いました。

そんなことを思い出していると、「利用者本位」ということは、それほど難しいことではないような気がしてきます。利用者さんの思いや願いをしっかり受け止め、自分たちにできることから実行していけば、徐々に近づいていけると思います。

現在、療護施設で働きはじめて9年になりますが、Mさんとのかかわりの中で学んだことを大切に、利用者さんと一緒に「楽しみ」や「喜び」を追い求めていきたいです。そのことでお互いに充実した生活が送れると信じています。